

2018年夏

1日医師体験 報告集

山口民医連では、毎年、医師志望の高校生・予備校生の皆さんに医師体験を提供しております。今年以下の日程で18名の高校生・予備校生が宇部協立病院でさまざまな医療体験を行いました。

当会の医師体験は少人数できめ細かい対応をしているのが特徴です。報告集を作成しましたのでご覧ください。

初回コース（半日コース）

8/1、8/6、8/8、8/10

リピーターコース（1日コース）

8/7、8/21、8/27、8/31



外科医の説明によるオペ室見学



外科医の指導による縫合体験



研修医の指導による診察体験

山口県民主医療機関連合会

〒755-0005 山口県宇部市五十目山町 15-2

Tel: 0836-35-9355 FAX: 0836-35-9356

ホームページ <http://www.mcoop-kenbun.jp/>



「医学生・研修
医サイト」
随時更新中！

初回コース（初めて参加の高校生対象）

初回コースは午後の半日を使って実施しました。主な内容は病院見学と医師体験です。

病院見学

病院には様々な専門性を持った医療従事者がいて、医師と連携しながら患者の治療をすすめています。今回は6つの部署（放射線科、検査科、リハビリ、薬局、栄養科、病棟）をまわり、それぞれの仕事の内容やチーム医療について、各職種の職員から説明を受けました。



放射線技師による MRI の説明



薬剤師による薬剤管理の説明

参加者の感想

- 放射線科の CT・MRI・レントゲンの違いが特に印象に残りました。症状によって使い分けをされていて、撮る時間も異なることにとても驚きました。病院というのはマニュアル通りにするのではなく、その場に応じて対応しないといけないことを学びました。
- 各部署が協力して病院が回っていることを改めて知りました。また、医師はどの治療をすることもできるけど各部署は医師の命令がなければその業務しかできないという話を聞いて医師の責任の重さを感じました。
- 患者さんのために病院が1つとなって協力して活動されていることを感じました。リハビリ科見学で、患者さんと病院職員との関わりを見たときに、何か絆のようなものがあるように見えました。

医師体験

医師体験は体験日によって、対応する医師も体験内容も変わります。

宇部協立病院の医師から、診察の仕方や皮膚の縫合の仕方、エコー（超音波検査）の画像の説明などを受けることができます。質問コーナーも設けていて、高校生のみなさんがききたいことに気軽に答えていただいています。



内科医による血圧測定の説明



整形外科医による縫合体験

参加者の感想

- 縫合体験は1mm程度の細かさを要する作業をするので、改めて医師の方々がすごさを実感しました。細かい作業で手が震えていたので、正確に針を出し入れするのが難しかったです。
- 今回、総合診療医である先生の話聞かせていただき、総合診療医になりたいという気持ちがいっそう高ま

りました。医師になりたいと改めて思える体験でした。

- 私は今まで医局に入ったことがなく、ドラマ等でよく見る怖いイメージでした。しかし、実際にお邪魔させていただくと、高校生である私たちに医師の方々は優しく接して下さいました。
- 今までに体験したことがない器具の体験ができました。自分が知っていること以外にも医師は多くの事をやっていて、もっと医師の仕事を知りたいと思いました。

リピーターコース

(2回目以上の参加者および予備校生対象)

リピーターコースは1日かけて、初回コースより深い内容を行っています。午前中はコミュニケーション学習と実践、午後は医師体験です。

コミュニケーション学習と実践

8/7は精神科の医師から、8/21、8/27は臨床心理士から、医療現場におけるコミュニケーションの在り方や技法についてレクチャーがありました。

患者の心を開くコミュニケーションは言葉だけでなく、態度やスキンシップ、声の調子やテンポなど、様々な配慮が求められます。傾聴や共感を呼ぶ技法について学習をしたあと、デイケアの利用者さんと交流し、学びを意識して会話を楽しみました。

参加者の感想

- 医師として患者さんに接するには患者さんの状態を聞くこと、信頼関係を築くためにはコミュニケーションをしっかりとることが必要だと分かりました。その為には聞き手として、相手の立場に立って相づちを打つなど、ことばだけでなく態度でもコミュニケーションをとることが重要だと思いました。
- 利用者さんの中には耳が遠い方もいらっしゃり、声の大きさを少し大きくして、しっかりと伝わるように意識しました。しかし、声が小さいのか、それとも自分とその利用者さんの間に話の認識の違いがあるのか、話が通じないこともあって、少し戸惑ってしまう場面もありました。
- 普段気にしていないコミュニケーションの取り方について、相手にとって気持ちのいい聞き方を教わりました。コミュニケーションの難しさや、相手の言いたいことを引き出す方法の奥深さを知り、改めて医師や心理士の方は凄いと感じました。
- 「もうあんなことをしゃべりたくない。と言われたときは、どうしたら良いのかわからなかった。いかに本音を聞き出す方法（ビジネス現場における方法）をそのまま適応することが不可能であったかを思い知らされた。これからの学習の課題としては自分の持っている知識や方法、経験をいかに臨床の現場にコミットさせるかということであると実感した。」

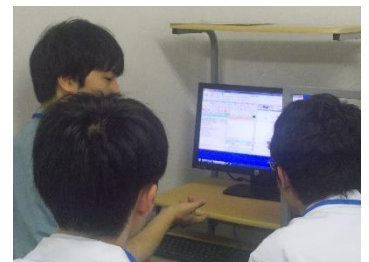


精神科医師によるコミュニ

精神科医によるコミュニケーション学習



デイケアの職員から説明を受ける様子



研修医によるカルテ記載の説明

医師体験

8/7、8/27は研修医から診察の仕方について学びました。実際に職員が患者役になり、頭痛や腹痛などの身体所見から、どんな問診や診察をするのか、病気を確定診断しカルテに所見を記載するまでの流れについて説明を受けました。

その後、学生同士で聴診器を使って、心音を聞くなどの体験も行いました。



オペ前の衛生的手洗いを体験

参加者の感想

- 実際に心臓の音を聞くなど、非常に貴重な体験をさせてもらいました。カルテを実際に書いてみて、医師の方が普段どんなことを書いているのか、少し知ることができて良かったです。この場でもコミュニケーション能力が大切だということが分かりました。
- 問診からカルテ記載までの流れを高校生のうちに経験できたのは、これからの受験勉強のモチベーションを維持するうえでもいい体験になりました。
- 浮腫とはむくみのことだと初めて知りました。左右の胸部、左下腹部の部分に聴診器をつけ音を聞きました。何年後後にこんなに興味深い、人の役に立てる基礎を初めてられると考えると、ワクワクしてきました。やはり医学生に着る白衣と予備校生に着た白衣の重みは違いすぎるので、思いのつまった大きい白衣を着れるようにしたいです。

8/21は手術着に着替えてオペ室に入り、外科医師からオペ室について説明を受けました。オペ室に入るときには手術前に行う「衛生的手洗い」を学びました。

オペ室の構造は細菌が中に入らない構造になっていることや手術室の照明は手元が手暗がりにならない工夫があることが説明されました。その後は、検査室にて医師の説明によるエコー（超音波検査）体験を行いました。



エコー（超音波検査）の画像を
みながら診察体験

参加者の感想

- オペ室には道具や手を清潔にしないと入れないので、その徹底ぶりの説明を受けました。手の洗い方も、つい腕を下げてしまってうまくいきませんでした。エコー（超音波検査）体験では、実際に職員の方の体を借りてからだの中を画像で確認しましたが、とても見づらかったです。医師はこの画像からよく臓器を見分けられるなと感心しました。

8/31は訪問看護同行、病棟医同行を体験しました。訪問看護師と一緒に患者様のお宅に訪問し、ケアをする場に立ち会いました。また、在宅介護の職員や担当の医師から現場の話をお聞きしました。

参加者からの感想

- 「認知症の1人暮らしの女性の家に訪問をした。認知症という印象は受けなかったが、夕方の薬を飲み忘れていたりした。患者さんと看護師さんの会話を見ていると患者さんはとても笑顔で楽しそうだった。」「入院されている患者さんの病室をまわった。様々な症状の患者さんがいると改めて実感した。そして、その病気になった背景も様々であることも分かった。「麻痺状態」がどのようなものであるか初めて理解した。話に聞いたことはあったが実際に見たことはなく、本当に動かず、力が抜けている状態で驚いた。先生・看護師さんと患者さんのやり取りを見ていると患者さんが先生・看護師さんを信頼していることがよくわかった。



病棟医の説明を受けていると
ころ